

生徒と教員 二つの視点から 多様性の尊重について考える

東京都江戸川区立
瑞江第二中学校教諭

森 剛徳
(もり たけのり)

1 はじめに

多様性を尊重する教育のテーマについては二つの視点があると考えます。

視点① 生徒が技術の授業を通して多様性を尊重する姿勢を身につける

視点② 教員が生徒に対して授業において多様性を尊重する

その上で私が取り組んでいる実践例を紹介する。

2 実践例【「A材料と加工の技術」で】

本校では生徒の保護者や兄弟・姉妹などの意見も取り入れた設計・作品づくりを行っている。その過程の一つにある「生徒と保護者とのグループワーク場面の設定」が視点①にあたる。

開隆堂教科書 P.44 以下の問題解決の流れが基本だが、構想や設計の段階で夏休みを挟んで、保護者（家族）と一緒に家の中の収納等に関する問題を発見してもらい、保護者（家族）の意見や要望を取り入れた問題解決が図れる作品を設計（※1）させている。

保護者（家族）とともに問題を発見し、問題を解決するための製作品を考えることで、例えば同じ本立てでも「自分」にとって使いやすい形状や大きさと「おじいちゃん、おばあちゃん」にとって使いやすい形状や大きさでは異なることに気づくだろう。

また、「誰にとって問題なのか」を明確にし、「誰が使用するのか」を考えて製作品を設計することが大切であることに気づくはずである。

上記のような生徒と保護者（家族）のグループワークを実施することにより、多様性を尊重する姿勢を身につけさせる一助としている。

授業を進めるうえで視点②にあたるのが「多様な資料や工具等の用意」「個に応じた題材（課題）の設定」の2点だ。

問題解決では、各自が問題を見つけ解決する設計をするため、使用する工具は生徒ごとに異なる。生徒の設計を製作品として実現させるには、さまざまな工具等を準備しておくことが大切だ。

また、自力での設計が難しい生徒への対応も必要だろう。事前に全生徒に複数のお手本設計図を配布し、どうしても設計が難しいと本人が判断した場合は「そのまま写してくるだけでもよい」としている。

難易度の高いことに取り組むことが難しい生徒がいても、個々の生徒に合わせた難易度で学習を進めていけばよいと考えている。教師は効率的な授業を行うために、多様な生徒を同一のレベルに合わせようとしてしまうことがある。もちろんそれも実際には必要であるのだが、個々の生徒の力を伸長することを第一とした場面を意識的に作ることも大切にしたい。

※1 保護者（家族）とともに考えることによって、生徒だけでなく、家族も完成を楽しみにしてくれる。家庭でも作品作りの進捗状況等を話題にってもらうことで生徒のモチベーションの向上にもつながっている。

3 実践例【他教科や特別活動等の取り組みを技術の授業で話題にする】

教科を越えた取り組みの中にも視点を当てはめることができる。例えば、本校で推進しているLGBTQ等に関する教育に関連して、視点②として「トレードオフの関係やプラス面、マイナス面を考える場面を設ける」ことを実践している。

本校では、制服に「男子用」「女子用」を定めないほか、出席簿や教室の班、体育も男子、女子を分けていない。その延長で「男子のイメージカラーは青、女子のイメージカラーは赤ということもやめよう」ということになり、トイレの表示も赤や青ではなく「黒」に統一した。

このことについて、技術の授業でトレードオフの説明をする際に次のように問いかけを行った。「LGBTQの観点からは黒に統一したことはよかつ

た。でも、視力の低い生徒にとってはどうなのかな」
 また、計測と制御の授業の導入部分では特別活動で扱った点字ブロックを引き合いに出し、生徒に次のように投げかけた。

教師 黄色い点字ブロック、景観的にはどう思う？

場所にもよるけどあまりよくないかも

目立たない点字ブロックがあればいいのに

教師 景観に配慮した目立たない色の点字ブロックもあるよ。でも何か問題点はない？

視覚障がい者（全盲以外）にとって見づらいかも

目立たない分、凹凸をはっきりさせれば（高低差を大きくすれば）わかりやすくなるかも

凹凸の深い点字ブロックがあればいい

教師 小さな子供や足の悪い人、車いすの人にとってはどうかな？（生徒に揺さぶりをかける）

足が引っかかって危ないかも

教師 計測と制御の技術で解決できる方法はないかな？

このようなことを考えさせると、ブロックだけにこだわらず、「GPS を利用した道案内ロボットがあればいい！」など全く新しい発想が出てきた。様々

な立場や状況の人がいることに気づかせ、配慮させながら、計測と制御の技術が、人々の多様性を尊重するためにも役立つことを伝えることができた。

4 実践例【グループ学習 声かけシートの活用】

視点①の実践として「生徒どうしのグループワークの活性化」を目的に、声かけシートを活用している。

A 材料と加工の技術の例でも取り上げたが、他者と対話しながら課題を解決する活動は、様々な考え方に触れるチャンスだ。多様性を尊重する姿勢を身につける上で、「多くの考え方に触れながら、課題を解決することを繰り返す」ことが有効である。

しかし、そのような活動は時間がかかる上に、子供たちがそのような経験が少ない場合、話し合いなどの活動がなかなかスタートしないことが多いのではないだろうか。また、特別教室で行う授業においては、教室での班（グループ）と異なるために、グループ活動が軌道に乗るまで時間がかかることがある。そこで、「グループ学習 声かけシート」を活用している（図 1 参照）。このシート自体は「深い学び」に直結するものではないが、話し合いなどが軌道に乗るまでの時間短縮に役立っている。

技術科 パソコン室 グループ学習 声かけシート	
<p>はじめ</p> <p>まずは自分で考えよう。</p> <p>やりたいことからさかのぼって考えよう。</p> <p>例 見やすいSNSの画面をつくりたい</p> <ul style="list-style-type: none"> →見やすいって何？ →文字の大きさは？ →文字の色は？ →書体は？ <p>例 床の線に沿って動く模型のプログラムをつくりたい</p> <ul style="list-style-type: none"> →線の有り、無しを判別する必要がある。 →線の有り、無しをどのように判断する？ →明るさセンサ（光センサ）を使用したらどうだろうか？ 	<p>自分の周りの友達と意見を出し合い理解を深めよう。</p> <p>出てほしい声かけ</p> <p>「ここ、どうやるの？」</p> <p>「それ、どこに書いてあったの？」</p> <p>「（～さんは）なんて書いたの？」</p> <p>「（～さんは）なんでそう考えたの？」（ここがポイント）</p> <p>「あ、そういうことか」「なるほど」</p> <p>全員同じ考えや答えになった場合に出てほしい声かけ</p> <p>「本当に正しいか、みんなで確認しよう！」</p> <p>「他にも、考えがないかみんなでアイデアを出そう！」</p> <p>全員分らない場合に出てほしい声かけ</p> <p>「教科書やノートを見てみよう。ヒントがあるかも。」</p> <p>「目的からさかのぼって考えてみよう」</p> <p>「資料（根拠）を探してみよう！」</p> <p>「どこでつまづいているか整理しよう！」</p> <p>「先生！～でつまづいています！助けてください！」</p> <p>こまっている子が「何につまづいているのか」理解し、助けよう！</p> <p>その時は、いきなり答えを教えるのではなく、ヒントを出してあげよう！</p>

図 1 グループ学習 声かけシート

5 まとめ

技術分野の授業で、多様性を尊重し育むために私が意識していることを整理すると次のようになる。

①課題の解決策について、多面的に検討するグループワークの促進

②個に応じた題材（課題）の設定

③多様な資料や工具等の準備

④教科・領域等横断的なカリキュラムマネジメント
以上である。現場では常に様々な「〇〇教育」が求められる。教科の本質を大切にして、無理なく授業に取り入れていくことが肝要である。



生徒作品